



(タラゴナ市の写真：左から、1. 一世紀に建てられた競技場外壁跡 2. 同じく一世紀に造られた地中海を臨む円形劇場 3. 16世紀に建てられた修道院跡のレストランで旧友のソプラノ歌手のマリア・ルイサと)

お元気でいらっしゃいますか？

7月5日～9日、スペイン・タラゴナ市の声楽セミナーに参加しました。とても良い学びをすることができました。透き通るような藍色の地中海と抜けるような青空の下、旧友たちとも再会することができ、出会う人々に福音を語るチャンスも与えられ、とても幸いな5日間を過ごしました。

スペイン地中海沿岸の気候は冬も温暖です。ところが、マドリッドが位置するスペイン中部、カスティーリヤ地方の気候は年間の気温差が非常に激しく、この季節は2つだけ、8カ月のインビエルノ (Invierno, 冬) と4カ月のインフィエルノ (Infierno, 灼熱地獄) と言われます。ドイツの夏も、今年は、まるでマドリッドのインフィエルノのような日が続きました。ドイツ・バーン (ドイツ鉄道) では、約2週間に亘ってICE (ドイツの新幹線) の空調が作動せず、多くの乗客が病院に運ばれる事態が発生しました。ICEの空調システムがマイナス20度から35度の間でしか機能しないからです。幸いなことに、数日前から暑さが和らぎ、ICEもやっと正常に運行できるようになりました。

●エル・エスコリアル

7月28日～8月1日、マドリッド近郊のエル・エスコリアルにて、第27回ヨーロッパ・キリスト者の集いが開催されます。

2年前、ルターの町ヴィッテンベルクで開催された第25回キリスト者の集いでは、ルターが提唱した「信仰のみ、聖書のみ、恵みのみ」という、私たちの信仰の原点がここにあることを再確認させられた、非常に意義深い時となりました。今回のエル・エスコリアル大会は、ヴィッテンベルクとは別の意味で、同時にヴィッテンベルクにつながるものとしても、行く前から二つの特別な思いを抱いています。

一つは、マドリッド集いが大会を主催したことです。

私は1984年にマドリッドで救いに導かれました。その後、1987年に、ドイツに開拓伝道へ向かう宣教師に同行しました。マドリッドとスペイン人を心から愛しつつドイツへ渡った宣教師夫妻と私は、いつか主が自分たちを再びスペインへ戻してくださることを願って祈り続けました。その祈りには、マドリッドに日本語集会が出来るようにという願いが含まれていました。



しかし、主は、私たちをスペインには戻されませんでした。2000年、宣教師夫妻はコスタリカに、私は賛美伝道に導かれたのです。2001年、初めて参加したヨーロッパ・キリスト者の集い（リヨン大会）で、日本で生まれ育ったフィンランド人のハンナ・キビニエミさんに出会いました。そして、ハンナさんが、その年の6月から、マドリッドで日本語集会を始められたことを知りました。主が私たちの長年の祈りにこのような形で応えてくださったことを知り、神の奇しいみわざを崇めずにはおられませんでした。そして今年、まだ小さいながら、このマドリッド集会が今年の大会を企画し、神が着々と準備を進めさせてくださっていることに、大会が始まる前から特別な感動を覚えています。

二つ目は、「エル・エスコリアル」という地で大会が行われることです。

1517年、ルターがヴィッテンベルク城教会の扉に95カ条の提題を打ちつけたことがきっかけで始まった宗教改革は、神聖ローマ皇帝カール5世と諸侯の対立・戦争に及びました。1555年、ついにアウグスブルク宗教会議にて、各諸侯がルター派かカトリックかを選択する自由が容認されました。これが「アウグスブルク和議」と呼ばれるものです。神聖ローマ皇帝カール5世は、同時にスペイン国王カルロス1世でもありました。彼は、長年の統治と戦争に疲労困憊し、翌1556年に退位、神聖ローマ帝国を弟のフェルディナンド1世に、スペイン国王の地位は息子フェリーペ2世に継承させました。



このフェリーペ2世は、大変熱心なカトリック信者でした。彼は父が容認したアウグスブルク和議を不服とし、エル・エスコリアルに宮殿を建て、ここを反宗教改革の拠点としたのです。フェリーペ2世は、この宮殿から、スペイン全領地に向かって命令を発しました。

ルターの宗教改革を容認せざるを得なかった神聖ローマ皇帝カール5世、その数年後、息子フェリーペ2世が反宗教改革運動を展開したエル・エスコリアルで、再び、宗教改革者ルターの「信仰のみ、聖書のみ、恵みのみ」を引き継ぐ日本人クリスチャンが集い（ちなみに、1586年、大正少年使節団の4人の日本人少年が、フェリーペ2世にマドリッドで謁見しています）、神を礼拝すること

に、私は、個人的に特別な意味を感じています。それは、ここに集う在欧日本人の私たちだけが喜び恵まれることだけでなく、当時「太陽の沈まぬ帝国」として繁栄し、歴史の大きな舞台となったエル・エスコリアルに立ち、「霊的暗黒の中にあるスペインの霊的覚醒のために、ヨーロッパのために祈りなさい、あなたをヨーロッパで、スペインで、暗闇から光の中に救い出したのは実にそのためである」と、神がお語りになっているような気がするのです。

大会のテーマは、「**Transformation=主に造り変えられる**」～第二コリント5章17節「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です」です。私は、今年も再びミラノの内村まり子さんと共に、賛美チームのコーディネーター、リーダーとして奉仕をさせていただきます。主が大会を祝福してくださるように、そして、各地から集まって来られる参加者が、盗難やけがや病気から守られますようにお祈りください！

皆さまの上に、主の溢れるご愛と恵みがありますように！

工藤篤子